

# 平成24年度事業報告書

学校法人 桐蔭学園

## 第1 法人の概要

### 1 設置する学校・学部・学科、入学定員・学生数(生徒、児童、園児数)の状況等

#### (1) 桐蔭横浜大学(昭和63年度開設)

##### ア 大学院

法学研究科	(入学定員 12名 : 現員 32名)
工学研究科	(入学定員 30名 : 現員 38名)
法務研究科	(入学定員 50名 : 現員 111名)

##### イ 法学部

法律学科	(入学定員 180名 : 現員 764名)
------	-----------------------

##### ウ 医用工学部

生命・環境システム工学科	(入学定員 0名 : 現員 3名)
生命医工学科	(入学定員 40名 : 現員 156名)
臨床工学科	(入学定員 40名 : 現員 165名)

##### エ 工学部

電子情報工学科	(入学定員 0名 : 現員 16名)
ロボット工学科	(入学定員 0名 : 現員 5名)

##### オ スポーツ健康政策学部

スポーツ教育学科	(入学定員 80名 : 現員 376名)
スポーツテクノロジー学科	(入学定員 80名 : 現員 386名)
スポーツ健康政策学科	(入学定員 80名 : 現員 370名)

#### (2) 桐蔭学園高等学校(昭和39年度開設)

##### 全日制課程

普通科	(入学定員 1,150名 : 現員 2,346名)
理数科	(入学定員 270名 : 現員 726名)

#### (3) 桐蔭学園中学校(昭和41年度開設)

(入学定員 550名 : 現員 1,415名)

#### (4) 桐蔭学園小学部(昭和42年度開設)

(入学定員 160名 : 現員 881名)

#### (5) 桐蔭学園幼稚部(昭和44年度開設)

(入学定員 70名 : 現員 125名)

#### (6) 桐蔭学園中等教育学校(平成13年度開設)

前期課程 (入学定員 160名 : 現員 527名)

後期課程 (入学定員 160名 : 現員 494名)

全日制課程

注 : 上記の学部、学科及び現員学生数(生徒、児童、園児数)は、平成25年3月31日現在のものである。

## 2 役員・教職員の状況

### (1) 役員(平成25年3月31日現在)

理事長		平岩 敬一	
理事	小島 武司	理事	熊野 文男
理事	廣江 健司	理事	萩原 啓実
理事	山城 崇夫	理事	園山 和夫
理事	榊原 滋	理事	野坂 康夫
理事	樋口 徹	理事	長野 充
理事	佐藤 宣践	理事	間々田俊治
理事	江藤 武俊	理事	田宮 甫
理事	平岩 敬一	理事	石橋 克規
理事	上辻 孝雄	理事	江口 英彦
理事	吉田 勝明	監事	鈴木 松太郎
監事	南 増明	—	—

定数 : 理事 19名、監事 2~3名、任期は共に2年

### (2) 平成25年3月31日現在の教職員数は、教員511名、職員173名

## 第2 事業の概要

平成24年度中の主要事業の概要は以下のとおり。

### 1 学園

#### (1) 桐蔭学園の事業推進

平成26年11月に当学園が、創立50周年を迎えるに当たり、さらに、学園の新たな50年に向けた発展のために、学園におけるすべての制度、システムを見直すこととし、10月、これら諸問題を検討して改革していく「桐蔭改革プロジェクトチーム」を立ち上げた。続いて同チームの下に、それぞれの目的に沿った「ワーキンググループ」(以下「WG」という。)を組織し、昨年度は「ICT・WG」「施設管理WG」「職員研修WG」「同窓会設立WG」を立ち上げた。また、50周年記念事業に向けては、記念式典のほか、総合グラウンド、新体育館の建設構想などの推進計画の企画立案のほか、文化面では学生・生徒が英語でしか会話できない「英語村」を開設し、英語教育の充実を図っていくことが決定された。

#### (2) 財政基盤の確立

改革方針の一つである経営の合理化については、修繕費、施設管理費、広告宣伝費等支出の再点検を行ったほか、公開入札による品質を維持したオークション(価格競争)システムの導入による支出の削減のほか、取引銀行を複数行にしたこ

とにより、利払い負担軽減という対応がとれるようになるなど財政基盤の強化を目指し、節減に努めた。

### (3) 校舎施設の整備事業の実施

平成24年度の校舎施設、設備等の整備事業としては、高校校舎の防災用給水ポンプ非常用電源接続工事、女子部体育棟プール用ボイラー、鶺川メモリアルホール大型空調機等の更新工事、大学体育館の屋根及び外壁改修工事等を行ったほか、防水対策として、高校第2校舎吹抜広場ガラストップライト、メモリアルホール屋上、女子部2階テラス等の防水改修工事を行った。

### (4) 大震災発災時の青葉警察署代替施設に関する協定書の締結

青葉警察署の庁舎が、大規模地震等により被災、倒壊した非常時に備え、迅速・的確に住民の安全を確保するために本学園の使用可能な施設を災害時の活動拠点の一部として使用したいとの要請を受け、地域社会への貢献のためにも協力、連携することとして5月31日、代替施設に関して同署と本学園が協定書を締結した。

## 2 大学・大学院

### (1) 大学の組織改革への取り組み

重点的課題を迅速かつ果敢に実行できるよう組織改革を検討し、学務部からアドミッションを、学生部からキャリア情報センターをそれぞれ分離する改革を決定した。新しい編成は平成25年度からスタートしている。

### (2) 就職支援について

平成24年度就職状況は、前年度に比べ、全体状況としては持ち直しに転じた。個別的には、臨床工学技士、臨床検査技師などの試験合格率は向上しているものの、公務員、教員などに課題が残った。

なお、就職支援業者の選定については、全学的な検討を経て、各学部の特質に応じたカウンセラーを配置する基本方針が確認され、平成25年度からの実施が決定した。

### (3) 入試について

大学全体としては、前年度に比べ志願者を増やしたが、法学部については、初めて定員を割った。

### (4) カリキュラム改革等について

各学部は、教育内容・方法への改善の取り組みとしてカリキュラム改革を行い、

教育の充実に向けた持続的な取り組みを行った。なお、退学者対策や休学者対策についても転学部や特例としての授業料の減額措置等具体的な施策を講じた。

### (5) スポーツ教育振興本部の活動

野球、柔道、サッカー、バスケットボール、ハンドボール、水泳の強化クラブの一層の強化に向けて、スポーツ後援会を設立した。なお、昨年度、硬式野球部は明治神宮大会において優勝を果たした。

### (6) 地域貢献・社会貢献

横浜市内28大学による「ヨコハマ大学祭り2012」において、市民対象の講座

を開催するとともに、学生パフォーマンスに参加した。

### 3 高等学校男子部

#### (1) 新学習指導要領への対応

新学習指導要領への対応として、高等学校については、平成25年度からの実施に伴い、先行実施していた数学、理科以外の科目について、昨年度、授業計画の検討が重ねられ、新年度に向けたカリキュラムの改定が行われた。

#### (2) 英語力の向上

英語力向上の強化を目指し、授業・考査・学年活動等において、きめ細かい指導を行った結果、大学入試センター試験において、全国平均を大幅に上回るなどの成果が上がった。

#### (3) キャリア教育の推進

キャリア教育については、学校としてのフロンティアセミナー(高校3年)、各界で活躍している卒業生による激励会(高校2年)のほか、受験体験をしたばかりの卒業生の講演や対話集会など発達段階に応じて、各学年による様々な計画が推進され、生徒の進学、職業選択など将来への意識を高める役割を果たした。また、これを支援する卒業生組織も協力態勢が整いつつある。

#### (4) 教員の指導力の向上

進学成果の向上はもとより、有為な人材を育成するために、生徒の意識向上とともに、教える側の教員の指導力向上を図るため、昨年度、教科別の「研修WG」を組織し、教員の学力向上の検討に入った。

#### (5) ICT利用教育の推進

高校以下の各学校における児童・生徒の学力、情報活用能力の向上を図るとともに、分かりやすい授業を実現するために「ICT・WG」を立ち上げ、当面、電子黒板などの機器を試験的に導入することが決定された。

#### (6) その他

男子剣道部が、新潟県で開催された平成24年度全国高校総合体育大会において、団体戦で9年ぶり3回目の優勝を果たしたほか、柔道部が福岡県で開催された金鷲旗高校柔道大会において準優勝した。

### 4 中等教育学校

#### (1) 大学入試実績の向上

昨年度、国公立及び有名私立大学の入試実績については、開校以来の新記録となった。東京大学現役合格者12名をはじめとして、東京工業大学、一橋大学、京都大学、国公立大学医学部の現役合格者数の合計は30名となり、在籍数の17.6パーセントを占めた(過去6年間は10パーセント前後)。また、早稲田大学、慶應義塾大学のどちらかに現役合格した生徒数も53名となり在籍の3割を占めた。大学入試センター試験を受験した生徒は、83.6パーセントに達し、国公立大学現役合格者は50名29.4パーセントの最多となった。これら合格状況の推移を見ると、平成24年度で新たな段階にステップアップしたことが窺えた。

#### (2) 学習指導・進路指導の実施

#### ア 学年ホームルームを活用した小テストの実施

基礎学力定着のために、英語・数学を中心に、毎週ホームルームで小テストを計画的に実施した。全学年での取り組みであり、学力増強のための指導としてこの12年間で定着した。

#### イ 英語力の向上

英検・数検・国語力検定への取り組みを積極的に推進している。特に英検は、開校以来の英語学力向上のために「全員が5年終了時で2級以上を取得する」を目標に掲げており、成果が表れてきている。1期生の35.2パーセントから、徐々に増加していき平成24年度5年生(8期生)は、68.2パーセントに達した。帰国生を中心に“TOEIC IP TEST”を、例年どおり2月に実施した。29名が受検し、平均点は723点、最高得点は965点であった(990点満点)。

#### ウ キャリア教育・卒業生との交流

前期課程では、卒業生社会人を招きセミナーを実施した。後期課程では、卒業生大学生を招き、「少人数グループ別ミーティング」では理系文系科目選択を中心に、「体験談を聞く集会」では大学受験を中心に、「夏期校外特別講習チューター」には学習面や大学生活全般を中心に、それぞれアドバイスを受ける機会を設けた。また、「大学訪問」では生徒たちが主要国公立大学の卒業生を訪ね案内してもらうなど、生徒たちの学習意欲喚起を図った。

#### エ 生活指導・マナー向上活動の実施

身だしなみについては、整髪やネクタイの適切な着用を心がけるよう指導した。また、全学年が、定期的に学年集会を開き、マナーやルールの順守についてや精神的成長を促す目的で、さまざまな話をする機会を多く持った。マナー向上活動では、前期課程で教員指導のもとで、生徒会、風紀委員会が「食堂マナー向上」キャンペーンや「朝の挨拶」運動を定期的に実施した。また、生徒会、社会活動委員を中心に、「あしなが学生募金」活動に参加するなど、ボランティア活動を行った。

### (3) その他

ア 国際理解教育の一環として活動している「模擬国連」部の5年生チーム(2名)が、昨年11月、青山の国際連合大学において行われた第6回全日本高校模擬国連大会において、優秀賞を獲得した。これにより、今年5月にニューヨークで行われた全米模擬国連大会に日本代表として出場した。

イ 新学習指導要領への対応(後期課程)、教員の指導力の向上、ICT利用教育の推進については、前記高校男子部に同じ。

## 5 中学校男子部

### (1) 学習指導の実施

ア 3年生において、国語力をより向上させることを目標とし、授業のシステムを一部改善した。具体的には、従来「国語」として一括、週4.5時間(0.5時間は隔週の授業)で実施していたところを国語①、国語②に分離し、前者はホームルーム授業で、週2時間の従来の現代文系と隔週での図書室授業を実施、後者は、週2時間の能力別クラス授業(LR授業)で古典系の授業を実施した。

- 中学校段階では、久々の国語系LR授業復活であったが、これにより、授業にメリハリができ生徒も意欲的に取り組むことで国語の総合力の向上に繋がった。
- イ 図書室における読書指導の授業(1年生は毎週1時間、2・3年生は隔週で1時間)は、今年度の3年生が1年次に導入してきたものであるが、今年度当該学年が3年になるに当たり、全学年での実施となった。単に、図書の貸出数増というだけでなく、国語力・文章力の向上に確実に寄与している。
- ウ 正規の授業の充実と並行して、成績上位者及び成績不振者それぞれの学力向上を目的として各種講習を実施した。3年生は、8月上旬に長野県・志賀高原において成績上位者講習を行ったほか、12月上旬には全生徒を対象に高校入試に向けた講習を実施した。1・2年生についても夏期研修期間を利用して各種講習を実施した。また、各学年とも放課後に「勉強会」と称して任意の講習を実施して学力の向上を図った。
- エ 英語検定は、今年度3年生が1年生の時から、従来3～5級のみ校内受検という状況を改善し、2級(1次試験)以下すべてを校内で受検できるようにし、現在に至っているが、これにより、受検率・取得率ともに向上している。

## (2) 行事の取組み

- ア 中学1年では、入学してから2か月経った6月上旬、学校生活を過ごすうえで、寝食を共にして級友間の親睦を深め、集団生活の基本的ルール・マナーを学ぶことを目的として、2泊3日による県外校外宿泊研修を行った(中学校女子部1年・中等教育学校1年も同様)。また、1月初旬に3泊4日で、1年生は妙高高原、2・3年生は蔵王高原においてスキーの技能向上、総合学習、集団生活力の向上を目的としたウインターキャンプを実施した。
- イ 6月には、校内において、2・3年生がスポーツ競技会を実施、10月下旬には、日産スタジアムにおいて学園体育祭に参加した。

## (3) 社会生活指導の実施

- ア ボランティア活動として、年間を通じ、学校周辺の清掃活動を実施、降雪時には、軟式野球部が近隣町内の「雪かき」に出動し、高齢化が進む地元自治会より感謝された。
- イ 「緑の羽根」募金活動に取り組んだほか、生徒会執行部を中心に「あしなが学生募金」にも参加し、社会貢献の意識を向上させた。

## (4) 情操教育の実施

年間を通じて、メモリアルホール、メモリアルアカデミウムの各企画に参加、演劇・音楽・絵画の鑑賞を通じて感性を磨いた。

## (5) その他

- ア クラブ活動において、中等教育学校とともにサッカー・ラグビー・軟式野球・水泳部等が全国大会及び全国規模の大会に出場し活躍した。
- イ 教員の指導力の向上、ICT利用教育の推進については、前記高校男子部に同じ。

# 6 中学校・高等学校女子部

## (1) 学習指導・進路指導の充実

能力別教育及び到達度教育の方針を生かすべく、「育て、伸ばし、鍛える」の指導方針に沿って、それぞれのレベルの生徒に対して、指導を加え、生徒一人ひとりの学力伸長に繋げてきた。結果として、女子生徒の大学合格実績は、難関校で苦戦したものの、国公立大学のほか、津田塾・東京女子・日本女子・MARCH・上智・東京理科大学等が向上した。

## (2) オープンスクールの実施

中学校女子部では、当学園女子部の良さと雰囲気を知ってもらうため、6月2日、初めてのオープンスクールを開催した。小学校4年生以上の多くの児童・保護者が集まり授業体験、クラブ体験などを行った。桐蔭学園女子部をPRする絶好の機会となった。

## (3) 体験型英語研修の実施

中学校女子部では、春学期間の3月末、2泊3日で2年生40名が、共通言語がすべて英語である異文化空間での生活を行う、福島県の体験型英語研修施設ブリティッシュヒルズで研修を行った。

## (4) 情操教育の充実と社会的マナーの啓蒙

ホール行事(音楽・演劇・映画)を鑑賞させ、各種展覧会の芸術作品を鑑賞させることで感性を育成した。また、毎朝及び下校時のホームルームにおいて、社会で取り扱われている出来事・問題を題材として、社会的マナーやエチケットの指導を行い、社会でバランスのとれた行動ができるように啓蒙した。

## (5) その他

ア 化学室前テラスを防水シート張りの改良工事を行ったほか、外階段下エレベーターホール外のテラス周囲の手すりに、落下防止用ネットを設置するなど校舎施設の安全整備を図った。

イ 富山県で開催された平成24年度全国高校総合体育大会において、女子の柔道部が個人戦において、57キログラム級で山本 杏(高校3年)が、52キログラム級で内尾真子(高校2年)が優勝した。なお、山本 杏は、昨年度、講道館杯柔道大会、グランドスラム東京大会でそれぞれ優勝を果たした。この他、女子ダンス部が、神戸で開催された第25回全日本高校・大学ダンスフェスティバルにおいて神戸市長賞を受賞した。

ウ 教員の指導力の向上、ICT利用教育の推進については、前記高校男子部に同じ。

## 7 幼稚部・小学部

### (1) コンクール入選・入賞

ア 「第56回全国学芸サイエンスコンクール絵画部門小学生の部」で、3年生の児童が入選2席に選ばれた。第53回の金賞(内閣総理大臣賞)・入選8席、第54回の入選1席、第55回の銀賞・入選3席に続き、4年連続の入賞・入選となった。

イ 平成24年度「神奈川県夏のすいせん図書読書感想文コンクール」で、6年生の児童が最優秀賞(県知事賞)を受賞、その感想文は神奈川新聞に掲載され、また、コラム「照明灯」でも紹介された。佳作には6年生、3年生、2年生2

名が選ばれ、入賞18名のうち小学部から5名が入賞した。

ウ ロボットクラブ（小6と中学・中等へ進んだ卒業生の合同チーム）が8年連続で全国大会に進み、「ロボット・デザイン・プレゼンテーション賞」を受賞した。惜しくも世界大会出場は果たせなかったが、反省点を生かして来年度、3度目の世界大会出場を目指す。

## (2) 夏のキャンプ行事再開と宿泊行事の一貫性

1・2年生の日帰り野外活動の見直しを行い、宿泊を伴う以前の形(1泊2日)に戻して学年別に実施した。平成23年度で終了したドイツサマースクールに続く行事として、6年生全員参加のサマースクール(関西方面研修旅行)を3泊4日で実施した。これで、幼稚部年長(1泊校内)から5・6年生(3泊4日校外)まで、キャンプ行事におけるつながりが確立した。

## (3) 小学部第3回入試実施と広報活動

ア 小学部第2回入試を過去3年間実施してきたが、さらに第3回入試を実施し、入学希望者への受験機会を増やした。

イ 入試広報室との連携を強め、学園の一貫教育の良さを広報活動で伝えるように努めた。

ウ 広報活動の幅を広げるため、校外での説明会の機会を増やした。さらに、従来の保護者対象のものに加えて塾・幼児教室対象の説明会を実施し、学園・幼稚部・小学部の教育をより正しく知ってもらえるようにした。ここでは給食試食会も行い、大変好評であった。今年度も実施する計画である。

## (4) 中学・中等につながる基礎学力の養成

ア 高学年の国語・算数のレッスン指導充実を図るため、レッスン替えごとにシラバスを配付し、学習進度・内容を児童・保護者が周知できるようにした。

イ 国語・算数のカリキュラム精選を進め、学校行事やその準備に充当する時間を確保した。

## (5) 対外試合や校外の競技会、発表会への積極的な参加

野球クラブ、タグラグビークラブ、陸上クラブ、演劇クラブなど、他校との試合や校外競技会、発表会への参加を通して技能やチームワークの向上を図り、あわせて他校児童との交流を深めるようにした。

## (6) 幼稚部・小学部の教育連携

ア 幼稚部と小学部の国語・算数教育をより系統化するために、幼稚部と小学部低学年教員が定例会を行い、読み・書き・数のカリキュラムの精選を進めるとともに、学ぶことの習慣・姿勢を身につけさせる指導を研修した。園児においては、話を聞く姿勢がよく身についてきた。

イ 図工科教育で「造形遊びの日」を設定し、年少から6年生まで同日で実施した。学年ごとのテーマに沿って身のまわりの素材に触れながら、のびのびと造形活動を行うことができた。今年度以降も継続していく。

ウ 小学部の委員会活動や給食の手伝い(5年生)を通じて、園児と児童がふれあう機会を企画・実行した。

## (7) 幼稚部保育環境の整備



ア 幼稚部校舎の2階ホールにもエアコンを設置し、園児が快適に遊べる環境を整えた。

イ 園庭の遊具の点検・補修を継続して行い、園児が安全に外遊びができるように努めた。昨年度末から工事を行っていた新しい遊具（呼称：わくわくランド）が山の上に完成し、これまで以上に外遊びの幅が広がった。

#### (8) 柿生スクールバス乗降場所の移動

長年利用してきた柿生駅近くのスクールバス乗降場所について、近隣住民への配慮から移動を検討し、今年3月1日より実施した。安全管理のために、幼・小の登校指導を臨時増員した。

#### (9) その他

教員の指導力の向上、ICT利用教育の推進については、前記高校男子部に同じ。

### 8 情報ネットワーク部

#### (1) 情報の一元化による取り組み

一昨年度より、情報ネットワーク部で一元化された学籍管理については、従来の業務との整合性が図られ順調に推移している。今後、学園の事業計画に役立つデータの分析提供を進めていく。

#### (2) ネットワーク環境の整備

桐蔭学園のメールサービス、パソコンウイルス対策は、学内設置型のサーバー機器で運用していたが、9月現行機器の保守・ライセンスの契約満了につき、経費削減、災害緊急時の対策を主眼におき、検討した結果、外部サービスによるクラウド化へ移行することとして、7月から9月にかけて移行を完了した。

#### (3) 学園ホームページ・連絡メールの一層の活用

学園ホームページについては、幼稚部から大学、関連施設にいたるまで法人全体を見直し、統一したデザインコンセプトの下で制作(リニューアル)を行った。公開後は、各部署毎の窓口が中心となり内容のチェック、更新していく体制が整った。また、連絡メールについて、高校以下では、これまでの学年単位からクラス単位で配信できるものにしたほか、保護者宛の緊急メールについて、全教職員にも同じ情報を通知する対応を実施した。現在保護者の登録率は、9割を越えており、これまでの電話連絡網からメールでの連絡を主とし、電話は未登録のみとする方式への移行を推進した。

大学・大学院の学生等に向けては、平成24年度よりシラバスネットを利用して、連絡の徹底を図っている。

#### (4) メールサービスの変更

学園、大学の複数ドメインを統合し、グーグル社のGメール環境に移行した。従来のメールアドレスとの配信整合性、学内各種サービスのパスワード連携機能など、クラウド化環境による業務への影響を抑える設計を実現している。スマートフォン、タブレットなど今後も出現しうる多様な端末にも柔軟に対応可能となった。

### 9 入試対策広報部

多くの優秀な児童・生徒の確保を目指し、本学園をよりよく知ってもらえるよう5月から12月にかけて学校説明会・入試説明会を数多く実施し、合計で5,596名の受験生・保護者が参加した。特に女子の減少に少しでも歯止めをかけるべく、6月には初めてオープンスクールを開催した。生徒の協力を得ながら実施したが、大変好評であった。次年度は、是非男子もという要望も多くあり、男女共々実施する方向で計画している。また、受験生の動向把握のためには欠かせない塾・公立中学校への訪問や連絡を一層強化するとともに、様々な取り組みや事業を展開して志願者増を図る広報活動を推進した。

## 10 健康管理センター

### (1) 健康管理の徹底

4月、児童・生徒・学生及び教職員の定期健康診断を実施した。児童・生徒に対しては、健康診断結果からの有所見者に対し、運動制限などの指示及び授業担当者への的確な連絡を行った。また、メタボリックシンドロームやその予備軍に該当し、生活習慣の改善が求められる教職員に対しては、平成24年度から、管理栄養士の訪問を受け、11名が学内で個別面接を実施し、継続指導を行うなど教職員の健康管理の徹底を図った。

### (2) 行事に伴う救護体制の確立

各学校で実施しているウインターキャンプや学園体育祭に際しては、協力医師のほか、持参医薬品の手配・準備等を行い、当日は現地に帯同し、協力医師のサポート、救護係の教員と協力して怪我人・病人の応急処置・看病に当たった。

## 11 文化センター

鶯川メモリアルホールにおいては、計50回の文化・芸能鑑賞会を実施（内訳：音楽鑑賞会16回、演劇公演16回、映画鑑賞会16回、古典芸能鑑賞会2回）し、各鑑賞会とも対象学年別に全児童・生徒が6回以上の公演を鑑賞した。また、桐蔭メモリアルアカデミウムにおいては、芸術作品鑑賞展示会を3回開催したほか、幼稚部から大学までの全校児童・生徒・学生からの公募作品を展示した「Toin Art Collection 2013 生徒作品展」を開催した。昆虫展では、鉄小学校の校長以下全校の生徒が見学に訪れるなど、展示会来館者は年度を通じて約1万5千人を数えた。

## 12 その他（国際交流の推進）

アメリカの高等学校との生徒の相互派遣により、語学研修、国際社会への視点の育成等を推進する目的で実施している国際交流では、平成24年度、名門ハイスクールであるアンドーヴァー校など、米国東海岸を主とした高等学校3校に6月、7月の5週間、23人（中等8人、男子高校4人、女子高校11人）が海外研修を行った。また、アメリカ、セントポールズスクール等4校からは、12人が交流生として桐蔭学園での勉学や意見交換等の学生生活を送った。

### 第3 財務の概要

#### (1) 連続資金収支計算書 (経年比較)

学校法人 桐蔭学園

(単位:千円)

科 目		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
収入 の 部	学生生徒等納付金収入	9,142,196	9,223,778	9,064,373	8,816,973
	手数料収入	193,683	180,347	165,959	173,158
	寄附金収入	277,751	271,350	255,169	228,905
	補助金収入	1,786,698	1,588,155	1,542,533	1,692,087
	資産運用収入	26,394	9,193	14,185	15,667
	資産売却収入	3,771	10,905	0	0
	事業収入	226,797	205,011	240,020	179,714
	雑収入	372,155	280,316	381,037	482,590
	借入金等収入	1,761,570	141,860	148,030	119,160
	前受金収入	2,384,198	2,245,843	2,076,533	1,989,192
	その他の収入	371,730	434,135	247,370	311,136
	資金収入調整勘定	△ 2,734,132	△ 2,606,462	△ 2,526,528	△ 2,447,096
	前年度繰越支払資金	10,708,750	8,164,908	7,721,107	6,262,404
	合 計	24,521,561	20,149,339	19,329,788	17,823,890
支出 の 部	人件費支出	7,844,358	7,661,609	7,720,905	7,965,603
	教育研究経費支出	2,202,127	2,103,917	1,944,686	2,005,544
	管理経費支出	963,034	740,255	627,215	486,307
	借入金等利息支出	131,719	145,543	125,909	104,976
	借入金等返済支出	1,173,470	1,120,520	1,108,590	1,120,840
	施設関係支出	3,651,875	85,259	408,270	42,727
	設備関係支出	432,371	166,068	167,575	174,924
	資産運用支出	0	0	1,006,000	0
	その他の支出	1,071,634	1,138,866	745,704	809,194
	資金支出調整勘定	△ 1,113,935	△ 733,805	△ 787,470	△ 842,369
	次年度繰越支払資金	8,164,908	7,721,107	6,262,404	5,956,144
合 計	24,521,561	20,149,339	19,329,788	17,823,890	

## (2) 連続消費収支計算書 (経年比較)

学校法人 桐蔭学園

(単位:千円)

科 目		H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
消 費 収 入 の 部	学生生徒等納付金	9,142,196	9,223,778	9,064,373	8,816,973
	手数料	193,683	180,347	165,959	173,158
	寄附金	287,830	295,244	262,145	246,971
	補助金	1,786,698	1,588,155	1,542,533	1,692,087
	資産運用収入	26,394	9,193	14,185	15,667
	資産売却差額	0	5,278	0	0
	事業収入	224,986	202,040	231,261	182,477
	雑収入	384,933	292,346	395,439	497,681
	帰属収入合計	12,046,720	11,796,381	11,675,895	11,625,014
	基本金組入額合計	△ 3,042,863	△ 1,345,640	△ 1,089,743	△ 1,020,854
消費収入合計	9,003,857	10,450,741	10,586,152	10,604,160	
消 費 支 出 の 部	人件費	7,883,360	7,715,784	7,785,750	7,894,344
	教育研究経費	3,567,200	3,552,855	3,406,995	3,434,857
	管理経費	1,137,404	913,175	812,126	657,789
	借入金等利息	131,719	145,543	125,909	104,976
	資産処分差額	236,284	7,753	123,788	206,745
	消費支出合計	12,955,967	12,335,110	12,254,568	12,298,711
当年度消費収入超過額	△ 3,952,110	△ 1,884,369	△ 1,668,416	△ 1,694,551	
前年度繰越消費収入超過額	△ 17,241,668	△ 20,785,081	△ 22,618,297	△ 24,038,032	
基本金取崩額	408,697	51,153	248,681	1,918,470	
翌年度繰越消費収入超過額	△ 20,785,081	△ 22,618,297	△ 24,038,032	△ 23,814,113	

## (3) 連続貸借対照表 (経年比較)

学校法人 桐蔭学園

(単位:千円)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
<b>資産の部</b>				
固定資産	57,447,399	56,085,512	55,923,509	54,324,555
流動資産	8,761,607	8,099,972	6,664,117	6,480,576
資産の部合計	66,209,006	64,185,484	62,587,626	60,805,131
<b>負債の部</b>				
固定負債	7,978,525	7,064,935	6,139,507	5,080,358
流動負債	4,969,986	4,398,782	4,305,025	4,255,377
負債の部合計	12,948,511	11,463,717	10,444,532	9,335,735
<b>基本金の部</b>				
第1号基本金	73,136,686	74,431,174	75,272,236	74,374,619
第4号基本金	908,890	908,890	908,890	908,890
基本金の部合計	74,045,576	75,340,064	76,181,126	75,283,509
<b>消費収支差額の部</b>				
翌年度繰越消費支出超過額	20,785,081	22,618,297	24,038,032	23,814,113
消費収支差額の部合計	△ 20,785,081	△ 22,618,297	△ 24,038,032	△ 23,814,113
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	66,209,006	64,185,484	62,587,626	60,805,131